

生徒指導の三機能を生かした「わかる授業」の考え方について

1 生徒指導の三機能

① 教科における生徒指導の意義

- 児童生徒にとって、学校生活の中心は授業である。
- 児童生徒一人一人に楽しくわかる授業を実感させることは教員に課せられた重要な責務である。
- 生徒指導は教科指導を充実したものととして成立させるために重要な意義を持つ。
- 毎日の教科指導において生徒指導の機能を発揮させることは、児童生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学校や学級の中での居場所をつくることになる。
- 児童生徒一人一人に自己存在感や自己有用感を味わわせるとともに、自尊感情を育て、自己実現を図るという重要な意義がある。
- 学習集団における人間関係を調整、改善し、豊かな人間関係を育成することにもつながる。
- 教科指導と生徒指導は相互に深く関わり合っている。教科において生徒指導を充実させることは、生徒指導上の課題を解決することにとどまらず、児童生徒一人一人の学力向上にもつながるとい
う意義がある。
- 教科において生徒指導が充実することによって教科指導が充実する。その結果、教科指導が一層改善・充実し、児童生徒の学力向上につながる。基本的な生活習慣が改善されてくると、不登校や学習への不適応などの課題が解決させることもある。



生徒指導が教科指導によって充実するということがあり、教科指導に生徒指導が貢献しているということを意味する。

② 昨年度の研究授業を振り返って

- 3年生：国語「サーカスのライオン」
- 具体的な手立てとその効果

ア) ワークシートの活用

→ 何をするのかという見通しが持ちやすく、書くスピードの個人差を埋められる。

イ) 意図的なグループ編成

→ リーダー性を養う機会になると同時に、一人一人の発言回数が増え、授業に全員が参加しやすくなる。

ウ) ペアやグループでの活動

→ 一人では考えが持てなくても、ペアやグループなどの小集団で話をするすることで、ヒントを得られたり、活動の停滞がなくなったりする。また、他の友達の考えを知ること、自分の考えを深めることができたり、「わかっているつもり」の児童への気づきになったりもする。

エ) 児童による学習方法や学習形態の選択

→ 教師主導の一方的な授業ではなく、教師を含め「みんなで学んでいる」という意識を高めることができる。また、(一部を)児童に選択させることで、その活動に責任を持って取り組むようになる。

オ) 相互評価を取り入れた振り返りの工夫

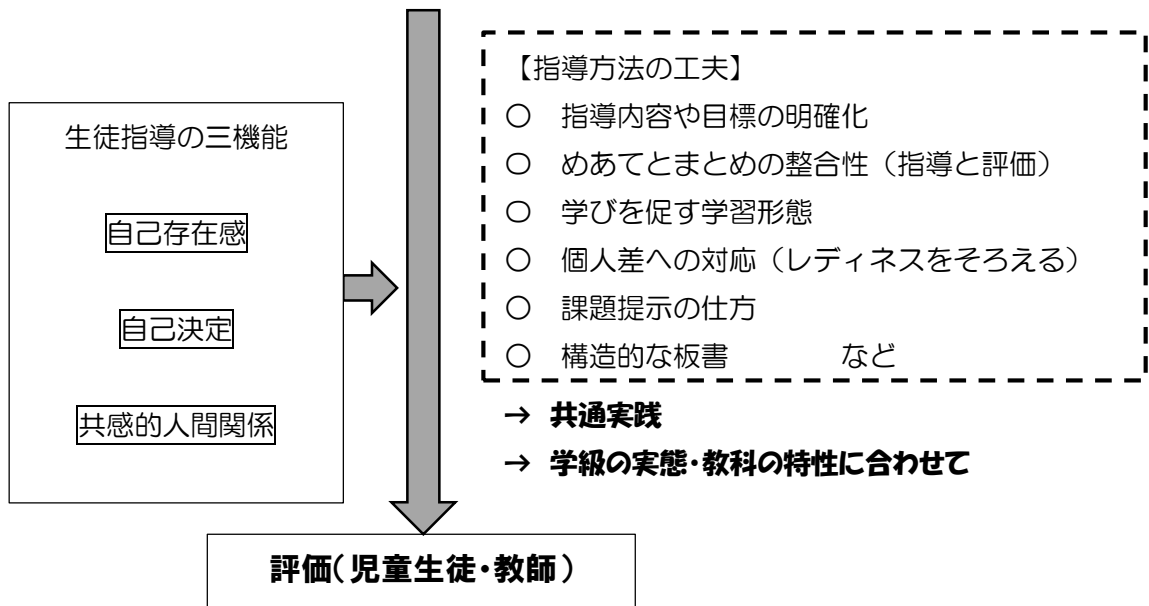
→ その時間に何を学んだのか、自分や友だちができたことは何だったかを言葉で振り返ること、自分や友だちのよさに目が向き、それが次の学びへの意欲になる。

2 「わかる授業」についての考え方

① わかる授業について

「わかる授業」＝児童生徒が、本時の学習のねらいを達成できる授業

(知識・理解) (思考・判断) (技能・表現) (関心・意欲・態度)



② 「わかる授業」づくりの過程

学習に参加する。

基本的な学習内容と方法を理解する。

基本的な学習内容と方法を身に付ける（定着する）。

学習内容と方法を適用（応用）し、確かなものに高める。

③ 授業改善のキーワード

- 一人一人の理解度を1単位時間の中で評価し、定着や習熟を図る時間が確保されているか。
- 指導内容が精選されており、テンポや間に配慮して授業を進めているか。
- 授業内容は子どもの実態にマッチしているか。
- 教師の指示や発問は的確で子どもに伝わっているか。